

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	具体的なものはない。法人の理念として「地域の拠点となれるよう」に理念を掲げている。	○ 今後の課題として話し合っていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、理念に基づいた質の良いケアが行えるよう、職員間で話しをするように心がけている。	○ 年に数回会議で基本理念を振り返り、それに沿ったケアを実施できる確認していく等、定期的に理念を確認し職員間で共有していくことが必要。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族に対しては、ケアプランの説明時等で話しているが、地域に向けてはしていない。	○ 地域の方々と接する事ができる機会を作ったり、運営推進会議などでくらしをもっと知って頂けるよう努める。広報の充実を図る。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事のあるときは、近所に挨拶に行く。参加してもらえるよう、声かけはしている	○ 回覧板等のつきあいができるよう、区長さん等と話し合ったり、外で行う行事の時は近隣の住民の方々も参加・見学していただける様、周知したい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前と比べてできていないが、村内の行事等にはできるだけ参加している。ご近所の方とは挨拶程度になっている。	○ 公共施設の行事等に見学の参加をさせてもらう。地元との交流が持てるよう、無理のない範囲で、地域活動に参加できるように努める。

グループホームくらし

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行っていない。	○	地域の高齢者や介護者に関係する催しを考えた たい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施と外部評価の結果報告、改善努力をしている。ご家族、職員間の理解度はまだ低い。	○	運営推進会議、家族会、職員間の会議等でそれぞれに理解度を深めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回会議を開催し、出席者より意見・質問等を受けている。会議内容が全職員に理解できるよう、記録を配布している。	○	会議の内容を見直し、充実化を図りたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へは懸案事項を常に相談し、市町村も必要に応じて訪問してくれている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご家族へは必要に応じて支援している。職員へは勉強会等の呼びかけや、研修会へ参加してもらったり、会議等で情報の共有を図っている。	○	職員全員が把握出来るよう研修・勉強会への強化。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加。虐待防止に努めている。	○	職員全員が把握出来るよう研修・勉強会への強化。

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご本人及びご家族・担当ケアマネージャー等に、利用金額の提示、サービス内容、職員体制など説明を行っている。また、解約については、契約時に解約の条件提示、解約時の支援内容等を説明、納得の上、入所して頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族、ご利用者からの意見や苦情が寄せられた場合はその都度対応し、ご利用者の不利益にならないよう対策をとっているが、外部者へ表せる機会を設けていない。	○ 運営推進会議等で知らせていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会の際は、必ず直近のご利用者の様子をお話ししている。また、金銭管理については、不定期であるが、出納帳の確認をお願いしている。その他、必要時にご家族へ連絡を行ったり、家族会や運営推進会議等を等して情報提供を心がけている。	○ どの職員も対応が可能なように統一が必要。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の実施。併設施設玄関に意見・苦情箱を設置している。また、重要事項説明書には苦情受付場所・担当を明記、玄関にも掲示して、契約時や家族会等でもお知らせしている。外部者への表せる機会を設けていない。	○ 家族会や運営推進会議等で知らせていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーが現場の意見を管理者に伝えている。	○ 運営全般に関し、職員の知識や意識が低くなりつつある。どの職員も常に問題意識や運営意識を持ちながら、現場のケアに当たっていただける体制作りが必要。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	協力し合っている。年に1回業務の見直しを会議で行っている。また、ご利用者・職員の状況に合わせその都度勤務・業務の見直しを行っている。	

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動の際は、ご利用者への影響を考慮するよう、管理者と相談している。異動時は申し送りを密に行っている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外部の研修会・勉強会の情報提供や参加を出来る限り行っている。職員の良い点を多く取り入れ、個々のレベルアップ向上に努めている。</p>	○	<p>更に、外部研修に参加できるようにしたい。また、ホーム内での任意の勉強会の実施を考えたい。</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県の連絡会に入会し、地域のグループホームの方と話しをする機会が増えたり、地域内の高齢者福祉サービス担当者会議や任意の勉強会等に参加して、交流を図ることもあるが、計画作成担当のみとなっている。職員全員が交流を図れることはほとんど無い。</p>	○	<p>職員全体で圏域で行われる勉強会への参加や、交流への意識を図りたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>福利厚生や親睦委員会により、職員旅行、職員歓迎会、新年会など職員間の親睦を深める機会を設けている。 年に2回、管理者が職員面談を行ない、本人の意向や意見を聞く機会を設けている。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>併設の老健ライフ2と共同での勉強会及び職員への教育（担当 施設長）</p>		

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前にご本人とお会いし、ご本人の状況把握に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前にご家族とお会いし、ご本人やご家族の状況把握に努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、必要な支援の把握に努め、入所待機期間中の対応策を提起している。また、他の同様の施設紹介や、場合によっては申込援助を行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人の状態に合わせて、出来る限り体験入所をお願いしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	活動を通じて、地域や本人の習慣を引き出したり、ご利用者やご家族の状況、精神状態、思いを出来るだけ把握し、職員間で共有出来るよう努めている。また、人生の先輩として、学ぶ事は素直に励まされて、共に協力、支えあえる関係を築いている。	

グループホームくらし

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時には連絡を取り、ご本人の意志や行動について話し合いを持つようになっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族の立場と気持ちを考えながらケアしてくよう努め、疎遠になっているご家族とは電話連絡している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設からの入所や、地域性の薄い入所者が多く馴染みの場所や人の把握が難しい。把握出来た場合には、出来る限り支援に努めているが、ほとんど出来ていないのが現状。	○	関係継続の支援をしていくために、馴染みの方への呼びかけを行いたい。また、こちらから出掛けることが出来るように、職員の体制作りが必要。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	活動や季節の行事等を通し、ご利用者の性格やご利用者間の関係を把握し、不安を避け、利用者同士が孤立しないよう職員が間に入っている。変化があったときは、職員が調整役になっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設施設に移動された方に関しては、時折様子を見に伺わせてもらったり、ご家族に様子を伺ったりしている。サービス終了後は施設入所の方がほとんどのため、継続的な関係性が必要と思われる方はほとんどいない。	○	必要であれば大切にしていく。

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、ご本人から直接話を聞き、ご本人の立場に立ってケアを提供できるよう努めている。また、サービス計画を立てる時には、ご本人の意向や日々の訴えを組み込んでいる。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報として、生活歴や地域での暮らし方など、関係者から情報提供して頂いている。また、入所後、新たに情報が合った場合には、職員間の情報共有に努めている。利用者との関わりの中で大事なことと認識している。	○ 新入職員があった時の情報の共有を徹底する必要がある。また、現職員でも情報収集や提供の意識に差があるため、意識の統一が必要。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者の状態を把握・観察し日々のケアをその時その時の利用者の状態に合わせ、行えるように努めている。	○ 職員全員が同レベルの観察力や洞察力を持てるようにしていく必要がある。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成時には、ご本人・ご家族や職員の意見を聞き、作成に努めている。	○ 多くの方から意見をもらい集約して介護計画に反映できるよう努力していく。サービス計画についての重要性や内容、実施について、更に職員の知識の向上が必要。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しと現状に即したケアプランを立てるよう努めている。	○ 多くの人から意見やアイデアをもらい、利用者が向上できるような計画が作れるよう努めていく。サービス計画についての重要性や内容、実施について、更に職員の知識の向上が必要。

グループホームくらし

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画作成からモニタリングまで、それぞれの職員が考え、実行・モニタリングしている。計画更新時にはご本人・ご家族はもちろん、各職員からも意見をとり、会議で検討している。	○	記録の取り方や読み方について更に職員の向上が必要
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診等、家族やご利用者の要望が合ったときは、その要望に応えられるよう努めているが、数多くはない。	○	職員の状況に左右されることなく、出来る限りご本人とご家族の要望に応えられるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の希望があれば出来る限り対応している。	○	今後も希望に合わせて、個々の対応を行っていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	主に併設の老健のクラブ活動やデイケアの利用をさせてもらっている。	○	希望があれば、民間のサークルに参加出来るように出来ればよいと考えている。今後も支援を続けたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、包括支援センターへの相談事項はないが、運営推進会議等で地域包括支援センターにご協力してもらえると、ご家族に情報提供している。	○	運営推進会議等の実施により、地域包括支援センターと関わりを持ち、常に協働できるようにしていきたい。

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	併設老健の看護師との連携が弱いため、強化したい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化、急変時への対応が冷静に行えるよう、ご家族や職員間で検討していく。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化、急変時への対応が冷静に行えるよう、ご家族や職員間で常に検討していく。

グループホームくらし

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前の情報交換は当然行い、サマリーを作成し、グループホームでどのように過ごしていたかを、移住先に連絡出来るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報保護に関しては、職員室に掲示し、いつでも職員が対応出来るようにしている。また、尊厳保持について、職員間で統一した意識を持てるよう、気づいた時にはその場で話している。利用者の尊厳を守れるよう意識している。	○	職員の入れ替わり時に職員の意識が低下しないようにする事が必要。また、慣れからくる職員の意識低下に注意したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	聞く耳を広く持って話し合っている。利用者のレベルに合わせ、できるだけわかりやすく説明したり、納得して頂けるよう、また、ご本人に決定権があることを意識して話すようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても時間に追われてしまうときがあるが、出来る限り、1人1人のペースに合わせる様になっている。	○	心にゆとりを持てるよう、早めに行動し利用者のペースに合わせた時間を提供できるように努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみは心がけている。外出時等、ご本人の希望に添って服選びをしている。理・美容は併設施設に来てもらっている、ボランティアを利用。	○	日々の衣類を本人と決められるよう行ってきたい。

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>多くのご利用者の意見・希望を叶えられるよう聞き出し、集約して内容を決められるようにしたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>トイレ内でのプライバシーを守れるような意識が必要。誘導からトイレ内、終了まで、尊厳を守れるよう意識を統一したい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>気持ちよく入浴してもらえる努力をしたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

グループホームくらし

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物は一緒に行っていただくよう心がけており、行える方には、ご自分で支払いが出来るよう見守りをしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の好きなご利用者には、天候を見ながら散歩、ドライブ、外気浴、外食等を行い、隔日で購入に行くなど、できる限り外に行けるよう支援している。個々の希望に対しては、職員体制を事前に整えられる時は整え、出きる限り支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご利用者から希望を聞きながら、それぞれの希望が叶えられるよう努めている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の状況を考慮しながら、電話をかけている。手紙はほとんど書く方はいないが、書くことが好きな方がいる時には支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	戸締まりの関係上、一応の面会可能な時間をご家族に伝えているが、いつでも面会して頂けるようにしている。面会時や行事の際は、周囲の状況も見ながら、ゆっくりと過ごして頂けるよう、居室や協働スペースで過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。ご利用者の安全を守るために玄関の鍵を掛ける可能性があることの説明と了承をご家族には貰っているが、掛けていない。	○	職員全員が身体拘束について認識できていけるよう、周知徹底していく。

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>鍵を掛けない意義を職員がしっかり理解してもらえるようにしたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>誤嚥、転倒等の危険予測、離設時の対応、防災訓練の実施等、周知徹底を継続して行っていく。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>応急処置や初期対応、緊急連絡対応の訓練と周知徹底</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>全職員が訓練を実施出来るようにする。また、地域の方々に協力して貰えるよう、訓練時に見学して貰う等の働きかけを今後もしていく。</p>

グループホームくらし


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時にホームでの活動内容を伝え、起こり得るリスクをご家族に伝えている。また、状況が変化したときには、速やかにご家族に連絡し、対応策を相談している。	○	職員全員がご利用者のリスクを把握し、考えて行動・連絡出来るよう向上が必要である。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に申し送りノートを活用し、日々のことを情報交換している。緊急時は、併設施設に医師・看護師がいるため、対応出来るようになっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診日や薬内容等、記録してファイリングしチェックしている。服薬に関しては、禁忌事項の把握、用法、重要な薬の把握は最低限行うように努めている。また、処方内容が変わった時には、変化に気を付けている。	○	職員が、薬の扱いや個々の処方内容、外用薬の用法をしっかりと把握出来るようにしたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄のチェック表や毎日の観察を基に、主治医や看護師に相談しながら、食事内容の工夫や運動に努め、便秘予防に心がけている。	○	更なる予防対策の学習を必要とする。また、排便確認が難しい方への取り組みを検討したい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔衛生や洗口液、義歯洗浄剤等を使用し援助している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保出来るよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方には摂取量を控えてもらったりしながら、バランス良く摂取してもらえようように心がけ、気になる方は、摂取表を利用し職員間で把握する等行っている。併設施設の栄養士にも相談にのってもらっている。		

グループホームくらし

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	併施設設での勉強会の参加等で予防方法を学んだり、対応方法を職員間で統一したりしている。また、換気・湿度に留意している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は冷暗所で保存し賞味期限内に調理、まな板やふきん等はハイターを使用し漂白、消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはスロープが設置されており、花壇作っている。歩行機能が衰えた方でも利用出来るようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の採光は天窓が設置されており、自然光が入るようになっている。また、トイレも窓が付いており、常に換気出来るようになっている。居間は食堂と共用になっており、和室も使えるようになっている。なるべく花を飾る等行い、季節感を感じてもらえるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に1人になれる場所はないが、和室にソファをおいたり、必要があれば障子を閉めるなど自由に快適に使っていただけるように配慮している。		

グループホームくらし

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に持ち込んでいただく物に特に制限はしておらず、使い慣れた物や馴染みの物を持ってきていただけるようご家族にお願いしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>食堂の採光は天窗が設置されており、和室には物干し台に続く大きな窓もあることから、換気がしやすくなっている。また、トイレも窓が付いており、常に換気出来るようになっている。室温調節はエアコンと床暖房で行っている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーになっており、廊下・浴室・トイレ・各出入口等に手すりが設置されている。また、居室内は、本人の身体状況に配慮した家具位置を心がけている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>個々の「出来る活動」と「している活動」の把握を行い、職員間で情報の共有とケアの統一を図っている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関には花壇や植木があり、好きな方が活動出来るようになっている。また、建物の裏手には畑があり、夏場は活動している。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホームくらし

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、季節や暦の行事の他にも、日常的に外食やドライブ等外出に力を入れ、個々の外出等の希望については、出来る限り職員体制を整え希望に応えられるようにしている。また、老健との併設を生かし大浴場での入浴や行事、クラブ・デイケアへの参加も行っている。ご利用者個々にはそれぞれの主治医がいるが、管理者が老健との兼務であり、また医師であることから、老健の看護師とも協力体制が出来ており、緊急時には速やかな対応が行え、専従の看護師も週1回ではあるが勤務できているため、ご利用者の健康面の相談も随時行えている。入浴に関しては、毎日好きな時間に入浴して貰えるようにしている。今までも、ご本人やご家族の希望により個々の活動の対応を出来るだけ行ってきたが、ご利用者の心身状態のレベルに差が生じてきたこともあり、これまでの集団的な活動やレクリエーションから、より個別な活動・対応を目指している。